

# 谷崎潤一郎と山成酒造（岡山県井原市）

～文豪が愛した小さな酒蔵～

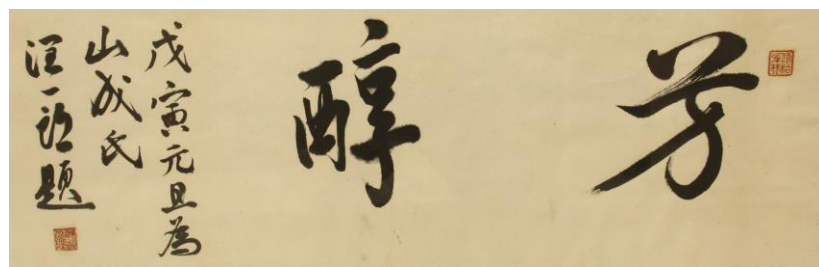
谷崎潤一郎の代表作「細雪」(1936年(昭和11年)発刊)は谷崎潤一郎の妻、松子の四姉妹(森田家:大阪船場の木綿問屋)を描いた名小説です。

森田四姉妹の長女、朝子はト部詮三(福山市)と結婚します(婿養子として森田家に入る)。

ト部詮三の姪、和(かず、尾道市)はト部家と交流の深い山成酒造に嫁ぎました。

以上のご縁により、谷崎先生は山成酒造の酒をご愛飲されました。

特に太平洋戦争中は山成酒造と同じ岡山県(現、真庭市)に疎開されていたので、物資の貧しい状況下においても文筆活動に励まれた先生の為に山成酒造の酒を絶えず供させていただきました。



谷崎先生の揮毫（山成酒造蔵）

「蘭の誉」化粧箱に印字しています

岡山の銘酒

らん ほまれ  
**蘭の誉**  
ろうろ  
**朗廬の里**

\*  
論語の『出藍の誉(しゅつらんのほまれ)』から『蘭の誉』と命名しました。備中杜氏が岡山県産の酒造好適米を伝統の和釜で蒸米し醸した酒です。熱燗にしてもおいしく飲めます。

岡山県産の酒造好適米、山田錦を50%精白し醸した大吟醸の蔵出し原酒です。渋沢栄一と関係の深い阪谷朗廬先生(井原市出身)にちなんだネーミングです。

Follow me!



\* 出藍の誉(しゅつらんのほまれ)

「青は藍より出でて、藍よりも青し」からきた論語のことわざ。弟子や部下が自分を超えていく事は名誉な事である。という意味。